

# 渡會 歌子さん

Utako Watarai

会社員

1972年生まれ。岐阜県立岩村高から文学部英文学科へ。現在、キリンビバレッジ株式会社勤務。実家の岩村醸造では2月に新酒を振る舞う蔵開きを開催。毎年、手伝っている



## 学祖と同じ名前を持ち 同じ故郷に生まれ育つて…

渋谷キャンパスにある  
下田歌子先生レリーフ  
(相武常雄作)の前で



店先に立つ歌子さんと母親の直子さん。直子さんは下田歌子の墓碑などを清掃する住民団体「岩岬うた子会」会長を務める

私の故郷は学祖、下田歌子先生と同じ岐阜県恵那市岩村町です。日本で最も高地にある岩村城という山城がある城下町で、実家は江戸時代から7代続く造り酒屋。現在、父と兄が蔵を切り盛りしています。

私が「歌子」と名付けられたのは、母親の憧れの先輩と同じ名前の方がいて、自分の娘につけたいと思っていたことがきっかけでした。家族に相談すると、下田先生と同名ということから賛成してくれたそうです。中学時代の恩師からは、郷土の偉人に縁がある名前ということから実践女子大学を勧められ、進学することにしました。

大学に入学すると、都会育ちの上品な感じの人ばかり。高校まで田舎で育った私には、東京での生活も大学生活も衝撃的でした。ただ、この大学で過ごしたからこそ、下田先生の数々の業績に触れることができ、地元の魅力にも気付くことができました。

大学時代の同級生や会社の同僚を岩村町に案内すると、江戸時代からの風情が残る町並みを皆気に入ってくれます。この町で生まれ育った下田先生は、近代日本の女性が社会で活躍できるよう、女子教育に力を注いだ人です。これからも、郷土の大先輩と岩村町を誇りにしていきたいと思えます。

下田歌子の故郷岩村の歴史資料館には、1862(文久2)年に洋書調所から出された『英和对訳袖珍辞書』の初版本が展示されています。200冊の限定出版で、現存するのはわずか数冊。幕末に山あいの小さな藩校「知新館」で、英語の授業が進められていたのです。そうした進取の精神に富んだ町で下田が生まれ、岩村と下田を誇りに思う人々によって「歌子」の名が引き継がれ、今の渡會さんがあるのですね。



男女共同参画推進担当理事  
人間社会学部長  
広井多鶴子教授